

## コロナール錠について

保健管理センター所長 工藤欣邦

ワクチン接種後の発熱や疼痛等の副反応に対して、希望される方は、1回目のワクチン接種の時のみコロナール錠をお渡ししています。

コロナール錠の主成分はアセトアミノフェンです。中枢神経に働きかけて解熱鎮痛効果を発揮します。通常、頭痛、腰痛、歯痛、変形性関節症に対する鎮痛や、急性上気道炎（風邪）、小児科領域の解熱・鎮痛等に用いられます。1回1錠を4～6時間以上間隔をあけて、1日2回までにしてください。なお、他の解熱鎮痛薬との併用は避けてください。

消化性潰瘍、血液疾患、肝障害、腎障害、心機能不全、アスピリン喘息で加療中の方、またはその既往歴のある方、妊娠または授乳中の方は、服用前に主治医の了解を得てから服用してください。また、過量服用により肝機能障害が起こる可能性があります。この薬を服用している間は、アセトアミノフェンを含む薬剤（市販のかぜ薬などにも含まれていることがあります）を服用しないでください。また、飲酒はこの薬の副作用を起こしやすくする恐れがありますので、服用中の飲酒は控えてください。

コロナールは比較的安全性の高いお薬ですが、稀に下記のような症状があらわれ、それが、[ ]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。このような場合には、服用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- 息苦しい、全身の発赤、蕁麻疹 [アナフィラキシーショック]
- 皮膚や粘膜に発疹・水疱ができる、眼が異常に充血する [中毒性表皮壊死融解症・皮膚粘膜眼症候群・急性汎発性発疹性膿疱症]
- 苦しさ、喘鳴（ヒューヒュー音） [喘息発作の誘発]
- 食欲がない、皮膚や白目が黄色くなる [劇症肝炎・肝機能障害・黄疸]
- 発熱を伴うのどの痛み [顆粒球減少症]
- 息苦しい、咳が出る [間質性肺炎]

上記をよく読まれた上で、裏面の質問に回答していただき署名いただけた方には、接種会場でコロナールをお渡しします。ただし、これまでに、コロナール錠またはアセトアミノフェンを含む薬剤を服用して何らかのアレルギー症状が出たことがある方には、今回、お渡しすることができませんのでご了解ください。

2回目の接種時にはコロナールは準備していません。副反応が出る頻度は2回目の方が高いので、1回目に使用しなかった場合は、2回目のために置き置きをしておいてください。1回目の接種時に使用してなくなり、2回目の接種時にも希望される場合は、保健管理センターでお渡しできますので、事前にご相談ください。

コロナールをお渡しするにあたっての質問

質問 1	本日、コロナール錠を希望しますか？（どちらかを○で囲む）	
	希望する	希望しない

※希望されない方はこれで終了です。予診票と一緒に提出してください。

質問 2	これまでコロナール錠やアセトアミノフェンを含む薬剤で、アレルギーが出たことがありますか？（どちらかを○で囲む）	
	なし	あり

※アレルギー歴のある方は、本日お渡しできませんのでご了承ください。

手続きの関係上、本日の日付と学籍番号（教職員は所属）、お名前を記入の上、予診医に提出してください。

私はコロナール錠の効果や副作用を理解した上で、投薬を希望します。

2021 年            月            日	
学籍番号（教職員は所属）	氏名